

# ごあいさつ



札幌市農業協同組合  
代表理事組合長

## 軽部 幹夫

日頃、みなさまには格別のご愛顧をいただき厚くお礼申し上げます。

JAさっぽろは積極的な情報開示を通じて経営の透明性を高め、当JAに対するご理解を一層深めていただくために、令和2年度の事業内容に関するディスクロージャー誌『JAさっぽろディスクロージャー2021』を発行いたしました。みなさまが取引金融機関を選択する際の判断材料として、また、当JAの地域貢献活動への取り組み、業績の推移などをご理解いただくための一助として、ご一読いただければ幸いです。

### ●JAを取り巻く情勢

国内外の政治・経済の不透明感が続くなか、農業・農政をめぐる情勢は、わが国と関係性の強い米国との「日米貿易協定」、「日EU経済連携協定(EPA)」、「日英包括的経済連携協定(EPA)」が発効され、日本農業への深刻な影響が懸念されます。そのようななか、政府の農協改革をめぐり、JAが自己改革を続ける姿勢に対して、一定の評価が得られたものの、一方では信用事業のあり方をめぐり、国内農業への資金供給に関心が集まり、信用事業の代理店化が提起されました。

本年6月に規制改革実施計画が閣議決定され、農協改革は大きな節目を迎えました。規制改革実施計画には代理店化に関する記述は盛り込まれることはなく、各JAの判断に委ねられることになりましたがJAはこれからも組合員との対話を通じて自己改革の実践を続けていく必要があります。

JAグループとしては、コロナ禍を端とする新たな兆候として考えられる農畜産物の深刻な需要減少や諸外国の食料輸出規制など、食料安全保障は憂慮すべき状況にあり、農業者の営農や生活に不安が生じることがないように総力を挙げて取り組んでいくことが求められています。

更には、農業協同組合の果たすべきこととして、食料自給率向上と食料安定供給の確保へ向けた役割を發揮しなければなりません。

### ●事業実績の状況

令和2年度における管内の農業は、春先の融雪も早く、播種・定植作業は順調に進みました。その後、長雨・干ばつの影響を受けた作物もありましたが、全般的に大きな災害もなく、農産物は総じて豊穰の年となりました。

また、新型コロナウイルスの感染拡大により外出自粛が続くなか、農産物販売価格への影響が懸念されましたが、7月～12月は、巣ごもり需要により量販店での消費が伸びたこと、本州方面の日照不足や湿害の影響により、全体的に数量減少となり市場価格については単価高となりました。

そ菜につきましては、不安定な気象条件が続き作物の栽培には厳しい一年となり、市場価格が一部の品目を除き、前年を下回り低調のまま推移しました。

当JAの基幹作物である玉葱は全道的に豊作基調となりましたが、転じて市場相場、販売価格は低迷気味となったこともあり、販売品取扱高は1,878,158千円(計画対比89.4%)となりました。

信用・共済・相談事業につきましては、長期化した金融緩和と政策など、厳しい事業環境が続きましたが、組合員や利用者のみなさまのニーズに応じた積極的な提案や相談に努めた結果、事業利益では前年度を上回る結果となりました。

### ●みなさまへのメッセージ

令和3年度は、第四次中期3ヵ年経営計画の最終年度であり、基本目標として掲げた「組合員の所得向上」、「地域における役割の発揮」、「安定的な経営基盤の確立」を重点施策として持続可能な経営基盤の構築に向けて、将来の収益環境を踏まえた「支店再編および経済センターの合理化計画」の実践に取り組んでまいります。

何卒、組合員・地域のみなさまには、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

令和3年7月